

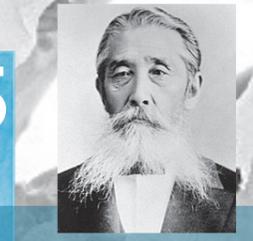


新島 八重

■A battle of the Shirakawaguchi 1

関東と東北の接点、白河

白河は昔から白河関が置かれるなど、関東と東北の「境界の地」として重要視されてきました。江戸時代には北の外様大名に備えて、石垣を多用した小峰城が築かれ、譜代や親藩の大名が配置されました。
また、奥州街道が福島や仙台方面へと通じ、水戸方面や会津にも街道が走る交通の要衝でした。
このことから、奥羽越列藩同盟軍（以下同盟軍）と新政府軍が白河をめぐる衝突しました。



板垣退助

■A battle of the Shirakawaguti 3

奥羽越列藩同盟

それに先立つ3月末、東北の雄藩である仙台藩は奥羽鎮撫総督府の命で会津攻めを行いつつ、水面下で米沢藩と連携して停戦を模索していました。そして両藩は東北諸藩を集め、会津藩への寛大な処置を求めて総督府に嘆願します。しかしそれが却下されると、京都に直接嘆願することに決し、「大義」を天下に唱えるという目的などのため同盟が結ばれます（奥羽列藩同盟、5月3日）。次いで長岡藩など北越諸藩も加わり、奥羽越列藩同盟に発展します。

■A battle of the Shirakawaguchi 5

白河での攻防と新政府軍の攻勢

小峰城を奪還した新政府軍でしたが、進軍できるほどの兵力はなく、援軍を待たなければなりません。兵力で勝る同盟軍は7月半ばまでの約2か月半で7度も攻撃をしますが、再奪還作戦は成功しませんでした。
情勢は6月半ばから変化を見せます。浜通りに増援が到着し、攻勢に出た白河の新政府軍は棚倉（同盟軍阿部家の居城）を占領、次いで三春に進みました。
このため白河付近の同盟軍は南北からの挟み撃ちを恐れ、福島方面に後退しました。
こうして、死傷者1,000人以上と言われ、戊辰戦争でも最大規模の戦いとなった白河の戦いは終結しました。
この戦いで、白河の町は大きな被害を受けました。しかし、町の人々は同盟軍の死者を丁寧に葬り、供養しました。また、新政府軍側の藩に「白河踊り」が伝わるなど、新政府軍との交流も見られました。このような両軍への関わりは、当時藩がなかった白河ゆえと言えるかもしれません。
この後、県内の戦いは二本松、会津へと移り、白河は新政府軍の後方基地としての役割を果たすこととなります。



大山 巖

NHK大河ドラマ「八重の桜」(1月6日)午後8時からがスタートします。ドラマでは「白河口の戦い」が前半の重要なシーンとして、登場する予定です。
今月号では、白河口の戦いについて紹介します。

■A battle of the Shirakawaguchi 2

空き城となった白河藩主の居城「小峰城」

白河藩は1627年(寛永4)に成立、以降幕末まで続きますが、1866年(慶応2)に阿部家が棚倉に転封されてからは藩が置かれず、諸藩兵が管理する空き城でした。
領地防衛のため白河を重要視した会津藩は、1868年(慶応4)閏4月20日小峰城を急襲、占領します。数日後には総督の西郷頼母と副総督の横山主税のほか仙台藩・棚倉藩兵なども入城し、近藤勇を失った新選組も、負傷の土方歳三にかわり山口二郎(斎藤一)が隊を率いて白河に到着しました。

■A battle of the Shirakawaguchi 4

新政府軍の白河奪還(5月1日の大戦争)

下野国(現在の栃木県)に進軍していた新政府軍は、会津藩の小峰城占領を受け、閏4月25日に奪還を図るものの失敗します。そこで白河攻めの兵力を増強し、700人程度が集結しました。一方同盟軍はその数倍、約2,500人から3,000人とされています。
5月1日早朝、新政府軍は白河の南・西・東を攻める三隊に分かれて北上しました。城下の正面、南から攻める部隊は主力と見せかける部隊、東西方面が奇襲部隊です。
対する同盟軍は城下南の稲荷山と東の雷神山、西の立石山に布陣しました。新政府軍は南からの部隊が稲荷山に砲火を集中し、同盟軍と激しい砲撃戦となります。この応援で手薄になった東側・西側を、新政府軍が奇襲して陣地を奪い、稲荷山や小峰城を攻撃しました。
稲荷山の同盟軍は左右と正面からの攻撃に耐えきれず、多くの死傷者を出して撤退しました。新政府軍は城下と城内に突入、昼過ぎに小峰城を占領しました。
同盟軍は横山主税や坂本大炊(仙台藩)など重臣も失い、1日で約400人から700人が戦死したと言われています。
一方、新政府軍の被害はごくわずかで、数倍の兵力の同盟軍に軍備や戦闘経験の差を見せつける結果となりました。

■A battle of the Shirakawaguchi 6

白河戦死者墓と新島八重夫妻

白河には、新政府軍・同盟軍双方の墓や供養碑が多数存在します。白河の人々は両軍の犠牲者を丁寧に葬り、供養しました。その一つが激戦地・稲荷山の麓にある会津藩士の墓と供養碑、それに向かい合う形の大垣・長州藩士の墓です。
1882年(明治15)7月、会津に向かう新島襄と八重の夫妻がここを通りました。襄は知人宛の書簡にこの墓について記しています。
激しい会津戦争を経験した八重の目には、白河で命を落とした会津藩士や大垣・長州藩士の墓はどのように映っていたのでしょうか。



新島 襄



白河の戊辰戦争 年表

- 慶応4年(1868)
- 【正月】3日 京都で鳥羽・伏見の戦いが起こる(戊辰戦争勃発)
- 【4月】11日 江戸城無血開城
- 【5月】15日 上野戦争
- 【閏4月】20日 会津藩、小峰城を奪取
- 25日 新政府軍、小峰城攻撃を行うも失敗
- 26日~29日 会津藩西郷頼母(白河口総督)・横山主税(同副総督)ほか仙台藩兵・棚倉藩兵らが小峰城に入城
- 【5月】1日 新政府軍、小峰城を奪還
- 3日 奥羽列藩同盟成立(6日には北越諸藩加盟し奥羽越列藩同盟へ)
- 26日~28日 同盟軍、第1~3次白河攻撃
- 29日 板垣退助(参謀)、白河到着
- 【6月】12日 同盟軍、第4次白河攻撃
- 24日 新政府軍が棚倉を攻撃し落城させる
- 25日 同盟軍、第5次白河攻撃
- 【7月】1日 同盟軍、第6次白河攻撃
- 15日 同盟軍、第7次白河攻撃(同盟軍側の白河攻撃終息)
- 26日 三春藩降伏
- 29日 二本松城落城
- 【9月】1日 米沢藩降伏
- 15日 仙台藩降伏
- 22日 会津藩降伏

参考文献：企画展図録「戊辰戦争といま」(福島県立博物館、2004年)、大山相「補訂 戊辰戦役史」(時事通信社、1988年)